

# 1000kmも飛ぶチョウ アサギマダラ

中山 健 2013/6/13

「アサギマダラ」(浅葱斑)というきれいなチョウがいます。

初夏の今ごろ(北に行く途中)と、秋(南に帰る途中)の2回、移動途中の休息のため大分県国東半島の先にある小さい島「姫島」に何百匹も飛来します。



姫島の小学生たちが羽根にマーキング(注)をして放しています。新潟で発見されたなど聞いたことがありますが、今回はなんと北海道の上ノ国町でも発見されたとのこと。私は、小学生時代夏休みずっと昆虫採集をやっていたので、蝶やトンボには関心があり、今でも昆虫図鑑を持っています。7年前、平成18年5月に姫島へアサギマダラを観察に行きました。時期になると姫島村のHPに「アサギマダラ情報」が掲載され、毎日の確認数(蝶は“頭”と数えます)を知ることが出来ます。今年(2013)6月5日には、10時に80頭、13時に40頭確認されたとありました。

(注)アサギマダラは鮮やかな色彩の大型のチョウで、長距離を移動します。マーキングとは、捕獲した成虫の翅の半透明部分に、捕獲場所・年月日・連絡先などをマジックインキで記入(マーキング)する方法のことです。マーキングされたチョウが再び捕獲された場所・日時によって、どれだけ移動したか、あるいは同じ場所ならば何日そこに居たかが分かる仕組みです。夏に日本本土で発生したアサギマダラのうち、多くが秋になると南西諸島や台湾まで南下することが判明したものの、集団越冬の場所や、大量に死んでいる場所は見つかっていないといえます。秋の南下では直線距離で1,500km以上移動したチョウや、1日あたり200km以上(時速8km)の速さで移動したチョウもあるそうです。南西諸島で繁殖、もしくは本土温暖地で幼虫越冬した個体は春の羽化後にその多くが、次の本土冷涼地での繁殖のために北上する傾向にあることが明らかになったといえます。

# 元気で戻っておいで!

## 姫島小児童



アサギマダラは千歳以上をし、調査を続けている上も長距離移動するのがアサギマダラ研究家の栗特優で、春に日本列島を、田島裕臣氏(ハース大学教員)、秋に南下する。姫島によると、昨年、同村前は移動中の重要な中継地でマーキングをしたものが、石川原と橋玉島で見つかったという。マーキングには、栗田四年前からマーキング 教授と六年生二千五百人

## アサギマダラにマーキング

姫島村の姫島小学校の児童が一日、同村に飛来しているアサギマダラへの調査のため、飛来したアサギマダラにマーキングを研究家と一緒に行った。姫島に飛来したアサギマダラが、どのようなルートでどこまで北上するかを調査するのが目的。



## 飛行ルート調査に協力

地元の人たちが参加。一匹一匹捕まえ、羽に捕獲場所、日付、捕獲者のイニシャルなどをマジックで記入して放した。初めてアサギマダラを触ったという人海香葉さん(二)「顔写真は二チヨウはかわいかった。姫島を離れてしまつのはちょっと寂しいが、元気でいてほしい」と話していた。



マーキングする姫島小の児童(写真真ん中)と、姫島を示す(左)アサギマダラ(写真右)

アサギマダラは初夏には「スナビキソウ」という花に、秋は「フジバカマ」という花の蜜を吸いに群がるようです。大分市の東に位置する佐賀関に灯台と天文台があります。佐賀関は「関アジ」や「関サバ」というブランドで全国的に有名です。



とても高いのでめったに口にする事が出来ません。晴れた日は四国の佐多岬が見える位置です。この天文台の職員が、「アサギマダラが来るかもしれない」と、敷地にフジバカマを沢山植えたら、アサギマダラが飛来するようになったらしいです。地元紙にこの記事が掲載されたので、平成23年10月に行きました。家から1時間ちょっとです。姫島のように沢山ではありませんでしたが、数頭見る事が出来ました。



姫島から約1200キロを飛び、北海道で見つかったアサギマダラ。3日、北海道上ノ国町の海岸

姫島から調査用のマーキングを付けて飛び立った移。姫島で5月21日にマーキングされたことを表す「5」が、約1200キロ離れた北海道上ノ国町の海岸で見つかったことが4日、分かった。北海道で飛行ルートを確認。同日、姫島村の調査をする「道南虫の会」による、春の北上途中にマーキングを受けたアサギマダラが、道内で確認されたのは今回が初めて。

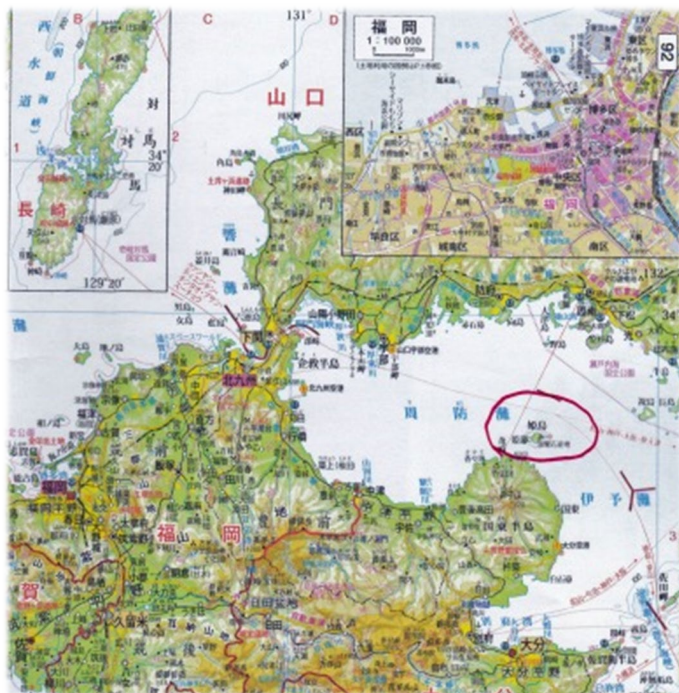
同会の名越和夫さん(64)が、道内函館市に上ると、3日午前7時ごろ、仲間と3人で町内の海岸を調査中に名越さんが1匹を捕獲した。他にアサギマダラはいなかったという。白の手ぬぐいを振り回す方法でおびき寄せ、網で生け捕りにし

### 北海道で初確認

アサギマダラは再度、マーキングして放したという。

アサギマダラは再度、マーキングして放したという。

アサギマダラは再度、マーキングして放したという。





(管理者より)

中山健さんは、大分県の男声合唱団南蛮コールに所属しておられます。

今年4月21日に開かれた第9回定期演奏会では、高田三郎「心象スケッチ」、同じく「啄木短歌集」、廣瀬量平「海の詩」、など30曲以上を演奏しました。アンコールには、初代「かぐや姫」のメンバーだった森進一郎さん作曲の“Last Run”という曲を披露されました。

写真は、その森さんが経営する居酒屋「十三夜」の前で、宮崎のフルトン男声合唱団の荒川滋さん(中央)、森さん(左)と撮ったものです。因みに、荒川さんはこのホームページではお馴染みで、これまでもいくつかエッセイを寄せて頂きました。

[E-92](#) 20年ぶりの沖縄(2013年4月2日)

[E-72](#) 『荒さんのぶらりある記-その弐』 万里の長城へ登る(2008年11月6日)

[M-72](#) 心のオアシスを求めて 『荒さんのぶらりある記』(2006年4月19日)

[Back](#)

[「虫めがね」TOPへ](#)

[Home](#)

[Home Pageへ](#)